



“学びの森”だより

あなたの役は、ありませんよ



「あなたの役は、ありませんよ。」

この言葉は、私が年長の時に幼稚園の先生から言われた言葉です。幼稚園の思い出には、楽しかったことやうれしかったことなどがたくさんありますが、一番に思い出されるのがこの言葉で、50年以上経った今も、その場面を覚えています。

幼稚園は、大好きでした。園庭での鬼ごっこ、遊具を使った遊び、お絵描き、お遊戯など、どれも楽しいことばかりでした。また、通園バスで通っていたので、行き帰りの友達との会話や、やりとりの時間も、とても楽しみでした。担任の先生も若くて優しく、笑顔の似合う女性で、いつも側にいて、一緒に遊んだり、楽しい話をしたりと、自分達のことをとても大事にしてくれるので、大好きでした。

それは、冬のころだったと思います。たぶん年度末の発表会で行う劇だと思うのですが、他の友達も先生の近くに集まって、その配役を決めていました。でも、私はそのことにまったく気付かず、1人でお絵描きに夢中になっていたのです。その時、仲良かった友達が、突然私の側に来て「何の役になった？」と聞いてきました。まったく訳の分からない私は「何のこと？」と聞き返しました。その後、少しのやりとりがあって、私は、自分だけがその話し合いに参加していないこと、そして劇の役がないことに気付きました。困った私は、すぐに先生のところに行き、「先生、ぼくの役は何？」と尋ねました。

「あなたの役はありませんよ。先生、呼んだけど、あなたは来ませんでした。だから劇にも出られません。」それが先生からの返事でした。すぐに教えてくれると思っていた私には、たいへんショックな言葉でした。もちろん先生の本心ではなく、安易に考えていた私の態度を戒めようと思って発した言葉だということは、今ならよくわかります。でも、幼かった私には理解できず、ただ、役がないこと、劇に出られないことだけでなく、優しく大好きな先生に言われたこともショックだったのだと思います。その日、暗い気持ちで帰宅しましたが、母にそのことを話せませんでした。

「今日、幼稚園へ行かない。」翌朝、母にそんなことを言ったのを覚えています。当然、理由を聞いてくる母に、私は、泣きながら昨日のことを話しました。何が何でも私は幼稚園を休みたかったのですが、結局は母に引きずられ、半ば強制的に、登園させられました。園では先生が門の前で待っていてくれました。母と先生が話をする間、私はドキドキしながら、母の後ろに隠れていました。しばらくして話が終わった後、先生が私の側にしゃがんで「昨日はごめんね。劇の役もちゃんとあるよ。一緒にがんばろう。」と言ってくれました。その一言で、私はすごくうれしい気持ちになり、ごく自然に園の中に入ることができ、その後は、これまでのように楽しく遊ぶことができました。

普段の生活の中で、通園する園児を見かけると、時々、このことを思い出します。幼稚園時代は、あんなに楽しい思い出がたくさんあるはずなのに、このことが一番に思い出され、胸の奥がチクッと痛むと同時に、先生に申し訳なかったなという気持ちになります。ほんの少しほろ苦い思い出です

6月、やっと学校が再開します。きっと再開を楽しみにしていた子だけでなく、不安を抱えた子供たちもたくさんいると思います。すべての子供たちが「やっぱり学校って楽しいな。また明日も行きたいな。」と思えるような言葉を、みなさんが子供たちに伝えてくれることを、心から願っています。

先生の一言一言は、子供たちの心を動かします。

(文責：富田指導員)

授業づくり研修会

「学習指導要領をベースにした授業時数の圧縮」の考え方を共有することを目的として、「授業づくり研修会」が開催されました。教科毎の圧縮版年間指導計画作成について、富二小の湯山小百合校長から、以下のとおり市内共通の考え方が示されました。

【圧縮版年間計画の作成について】

- 学びの保障…①付きたい力を明確にする。
②教科書がすべてではない、学習指導要領が根拠。
- 子どもの学ぶ意欲を喚起
- 授業時数の圧縮をどのように行うか。
- 学校再開後、また休業になっても対応できるように、圧縮はできるだけスリムなものにして、時数に余裕が出た場合は、肉付けをしていく。（「学びの卵」「小学校・理科」より）

上記の内容については、小学校授業づくり推進リーダー、小学校外国語教育推進リーダー、市内中学校教職員によって検討されました。

教科や学年別に行われた話し合いの中で、実施できる教科活動や距離の取り方等についても具体的な意見交換がされました。

この研修会で話し合われたことは、担当者がまとめ、

[共有フォルダ→000 全学校共通→「学びの卵」→001 授業づくり研修会](#)

の中に資料としてアップされています。ぜひ、ご覧になり、年間指導計画作成や授業づくりの参考としてください。



「森の道標」訪問します！

5月は、初めて「森の道標」対象の方を中心に、先生方の思いを伺ったり、直接研修の趣旨・方法等について説明させていただきました。

いよいよ、6月から「森の道標」がスタートします。指導員訪問の際は、よろしくお願いいたします。



© 裾野市



編集・発行：「学びの森」
〒410-1102
裾野市深良 435 番地
生涯学習センター 2階
TEL：055-995-4903
FAX：055-995-4904